

変わっくるん

興梠侑
(幼稚園教諭)

幼稚園教諭として働き始め、2度目の季節

を迎えています。今年度も、昨年度と同じ4歳児クラスの担任ですが、子どもたちとの日々は、いまだに思いがけないことばかりで、試行錯誤しながら過ごしています。目の前の出来事にわくわくするときもあれば、どうすればよいか困ったり悩んだりして、何もできずに立ち尽くしてしまうときもあります。それでも、子どもたちとのことを振り返り、その中で子どもが変わってきたことに気づくと、なんとも言えない喜びを感じて心が温かくなります。そんな「変わっていくこと」につい

て、考えていることがあります。

大事にしたいと思うこと

少し話がそれますが、私にとって、子どもたちと一緒に過ごすことは、ただ子どもと時間を共にする、ということではありませんでした。子どもたちのことを励まし、誘い、時にはそっと見守ったり、叱ったり……。毎日の保育の中で、いつも頭の片隅にあるのは、和光鶴川幼稚園の教育方針のひとつでもある、「自分っていいなと思える子どもに」ということです。子どもたちが、自分のよいところ

を知ることや、自信をもてること、自分を好きになれることが、きっと、幼稚園での生活や子どもたちのこれからの生活を、もっとよいものにしてくれると思うからです。「いいな」と感じるころは、子どもたち一人ひとりによって違うので、例えば、「泥だんごをピカピカに作れる私ってすごい！」というようなことも、この言葉には当てはまるのだと思います。

私が子どもたちと過ごすときには、子どもを励ますのも見守るのも、どんなかわりであって、「自分っていいな、と思えるようになってほしい」という子どもたちへの願いを、大事にしたいと思っています。

変わっていくのは子ども自身

私が園で一緒に過ごしている子どもたちは、いつも変わっていつているのだと思います

す。そして子どもたちが、「自分っていいな」という姿に向かっているのは、私もうれいのです。朝、登園してきてから「何もしたくない」とずっと座っていた子が、登園するや否や急いでリュックを置いて、園庭に走り出していく……。何をするときも、仲良しの友達について行っていた子が、一人で「先生、鬼ごっこしよう！」と私を誘いにくる……。自分の絵をいつも最後に塗りつぶしていた子が、満足げに「できた！」とつぶやく……。自分に自信をつけたときの子どもの姿は、心に残ります。

子どもたちは変わっていくのですが、変わっている最中に、「あの子が変わってきたぞ〜」というように、その変化がはっきりとわかることはありません。私は、4月にその子と出会った頃のことや一つ前の季節を思い出したときに、「そう言えば最近……」「あれ？ 前

と違って……」と、ふと、その子が変わったことに気づきました。

一人ひとりに、「やりたいことを見つけてほしいな」「自分で好きなことを選んでほしいな」「納得できる絵を描いてほしいな」と思っ
てかわっているのは確かですが、「いつから変わったのだろう」「なぜ変わったのだろう」ということに答えはありません。子どもたちの変化は、あくまでも子どもたち自身の変化であり、私が「こうなってほしい！」と願った通りに変わっていくはずはないのだと思います。それでも、子どもたちの変化がうれしいのは、私とのあれこれは関係なく、子どもたちのそんな姿が見られた、そのことがうれしいのです。

きっかけが説明できないからこそ、子どもの変化を見つけると、今、目の前にいる子どもたちとどう過ごすのか、真剣に向きあいたいとあらためて思います。2度目の季節でも、

子どもと私とのかかわりの中で、何が子どもたちを励まし、よりどころになるのかはわからないからです。

私自身の変化も見つけて……

この2年間を振り返ると、私自身が変わってきたことも感じます。

例えば、走っている途中で転んでしまい泣いている子どもに、「痛かったね、大丈夫?」とは言えても、その子を「もう一度走ろうよ」と誘うことは、以前の私にはとてもためらわれることでした。「そろそろ痛みはなくなっただろうから、もう一回、走ってみてほしいな」と心の中でつぶやいていても、「こんなこと言っ
てよいのかな?」と、自分の思いを前面に出すことは不安だったのです。もちろん今でも、ためらいや後悔はありますが、「もう一回、一緒に走りたい」と思ったのであれば、「やってみようよ!」と声をかけている自分がいま

す。

人形劇ごっこでは、「これだとお客さんにはわからないよ」と子どもたちに伝えたこともありました。隣のクラスを招待しようということになったのですが、人形が見えない、言葉も聞こえない……というのが、お客さん役になった私の率直な感想でした。「招待したい」という子どもたちの思いをかなえることもできたのに、その前に思わず、私の感じたことを子どもたちに伝えたのは、自分でも驚きましたが、その後も「本物みたいに」と、人形劇ごっこが続いたのを見て、「言ってみてよかった」とホッとしました。

子どもたちを前に、感じたことを率直に言葉にして伝えると、私も、だんだんと居心地よく過ごせるようになりました。ありのままの自分で過ごしても、子どもたちと楽しい時間を積み重ねられると気づき、幼稚園教諭と

しての自分に、自信が出てきたのです。

私の変化も、今、自分自身を振り返ると感じる場所であって、このことがきっかけで、いつ変わったか、とはつきりとは言えません。きっと子どもたちとのやりとりや、周りの先生方との話の中で、「私も、もっと思いのままに過ごしてよいのだな」と考えるようになったのだと思います。以前の自分と今の自分を比べるわけではないのですが、ひとつ言えるのは、子どもたちとの時間をより楽しんでるのは、今の自分だということです。そんなふうになんか自分が変わってきたことも、少し誇らしく思っています。

保育の中で、子どもも私も変わっていく、その変化に気づくことは、私に大きな力をくれました。「私もまんざら悪くないぞー」と思いつつながら、また明日も、子どもたちと過ごしていきたいと思えます。